

幹事会・運営委員会報告

庶務幹事 前田裕宣、坂井信彦

◇第Ⅱ期幹事会（第8回）

日 時：11月16日（土） 午後1時30分～5時
場 所：航空会館 9階（901号室）
出席者：菊田、虎谷、下村、圓山、渡辺、塩谷、坂井、前田、
佐久間（事務局）
オブザーバー：大野、植木（共同チーム・財団）、鈴木、牧田（財団）、

1. 各幹事報告

会計幹事：虎谷

- ・平成8年度実績について会計幹事から報告があった。

行事幹事：坂田、代理説明：坂井

- ・10月27、28日の両日開催された「SPring-8シンポジウム」は、参加者が145名で、JASRIから全面的な協力のもとに、無事終了した。
- ・第10回放射光学会年会・放射光合同シンポジウムが、東京大学（本郷キャンパス）で開かれ、最終日の平成9年1月11日（土）午後1時30分～5時30分に、今年度のSPring-8利用者懇談会の総会を予定している。

利用幹事：下村

- ・サブグループ設置に関する申請書類が1通提案されているので検討し、設置の方向で詳細をつめている。
- ・X線ホログラフィのサブグループからSGの解散の連絡があった。解散届は初めてのことであり、対応を検討している。
- ・散漫散乱SGで代表者の前田氏から大嶋氏に、また軟X線顕微鏡で木原氏から上条氏への交代の連絡があった。

編集幹事：圓山

- ・「光彩」次号12号は12月早々に発刊の予定している。

2. 次期運営委員選挙のための選挙管理委員会の設置について（庶務幹事：坂井）

- ・次期運営委員の選出のための選挙日程と選挙管理委員会の設置について庶務幹事から説明があり、会長より鳥海（姫工大）、難波（神戸大）、牧田（JASRI）の3氏が選挙管理委員として指名された。

3. 1月の運営委員会および年会開催について（庶務幹事：坂井）

- ・総会に先立って予定されている運営委員会の日程・場所等を検討した。具体案は、後日庶務から連絡する。
- ・総会については、会長からプログラム案が示され、検討した。プログラムの一部は、共同チーム・JASRIとさらに協議し、詳しくは、「光彩」にのせることとなった。

4. JASRIがSPring-8の管理運営を引き継いでからのSPring-8利用者懇談会のあり方

(会長：菊田)

- ・上記テーマに関して、会長からその試案（7項目について）が説明され、検討された。

5. その他

- ・準会員制度について

海外在住者などに情報提供することを促進するため、会則に準会員制度を設ける改定案を次回の運営委員会、総会に提案することとした。

◇第Ⅱ期幹事会（第9回）

日 時：平成9年1月11日（土） 午前10時～午前11時

場 所：東京大学・理学部化学教室5階会議室

出席者：菊田、虎谷、下村、坂田、塩谷、菅、松井、難波、圓山、徳永、渡辺（巖）、
村田、前田、坂井
佐久間（事務局）
オブザーバー：大野（共同チーム・財団）、鈴木、牧田（財団）

当幹事会は第Ⅳ期運営委員会（第2回）の前に開催され、内容は続いて開催された運営委員会と同一なので、第Ⅳ回運営委員会の報告を参照していただきたい。

◇第Ⅳ期運営委員会（第2回）

日 時：平成9年1月11日（土） 午前11時～午後1時

場 所：東京大学・理学部化学教室5階会議室

出席者：菊田、虎谷、下村、坂田、塩谷、菅、松井、難波、圓山、徳永、渡辺（巖）、
村田、佐藤、辻、渡辺（誠）、安岡、三木、木原、宇山、坂井、前田、
佐久間（事務局）
オブザーバー：大野（共同チーム・財団）、鈴木、牧田（財団）

佐藤氏を議長に本年度第2回の運営委員会を開催した。

[報告事項]

1. 会長報告

会長より次のように平成8年度のSPring-8利用者懇談会活動が報告された。

- ・原研・理研大型放射光共同チーム、高輝度光科学研究センターとの交流、委託業務の実

施

利用研究に対する調査報告書の作成作業を従来どうり利用幹事を中心に行った。

- ・ 共同利用体制について
共同利用のビームラインに関しては、研究成果を公表する場合は、ビームの使用料は無料にすることが確定している。旅費に関しては現在検討されている。
- ・ 共用ビームラインの実験ステーション建設
利用者懇談会も建設に、協力している。
- ・ SPring-8シンポジウムについて
いよいよ平成9年から光がでるので、「立ち上げの当初に最初のビームを使って何をするのか」を提案するシンポジウムが10月末に2日にわたり開催された。挑戦的なサイエンスが提示され盛況であった。
- ・ 第2期ビームラインの整備計画
計画趣意書が提出され、審査作業が進んでいる。
- ・ SGの組織の充実について
SG名：「電子励起新物質創製」、提案代表者名：吉田 博のグループとして新SGの提案があった。
また、「X線ホログラフィ」の代表者（篠原邦夫）からグループの廃止の提案があり、相談の結果、休止扱いとされた。
- ・ 年会とシンポジウムについて
共催団体による見直し作業の結果、今の形態が今後も存続するようになった。ちなみに参加者は、去年400名ぐらいであり、今年は500名ぐらいと増加している。
- ・ 広報誌「光彩」の発刊を年4回にし、先頃12号が発刊され、年度内に13号が発行の予定である。

2. 各幹事報告

庶務幹事：坂井

- ・ 次期運営委員の候補者の推薦のお願い
1月13（月）までにお願ひする。
- ・ 会員名簿を更新する予定である。
- ・ 新規入会申請者72名と退会者7名を含め現会員総数は1042名になった。

会計幹事：虎谷

- ・ SPring-8利用者懇談会平成7年度決算報告
ライフサイエンス研究分野および材料科学研究分野について使用状況が述べられた。
- ・ 会費の納入実績が現在会員の74%である事も報告された。
- ・ SPring-8利用者懇談会平成8年度予算および使用実績の報告
各サブグループ開催（予算使用）の状況が説明された。これらは例年どうり推移している。

行事幹事：徳永

- ・ 「電子励起新物質創製」のSGからSPring-8ワークショップ「SPring-8利用による電子励起新物質創製をめざして」の共同開催の提案があり、審議の結果、原案どうり承認した。

編集幹事：圓山

- ・「光彩」の発行について

「光彩」は今年から季刊誌として年4回の発刊になった。10号を6月に、11号を9月に、12号を12月に発行した。次号（13号）発行は3月の予定。

- ・「光彩」の将来について

「光彩」と「SPring-8利用者情報」の整理統合について編集幹事を中心に検討する。

利用幹事：下村

- ・利用研究課題SGについて

SG新設について“電子励起新物質創製”（提案代表者名：吉田 博（阪大・産研））のグループからの申請の紹介があり、了承された。また「X線ホログラフィ」の代表世話人（篠原邦夫）から世話人不在でグループの廃止の連絡があり、休止扱いとすることとした。現在登録されているサブグループの数は35である。

- ・BL建設について

第2期目のプロポーザルが始まっている。平成10年以降、約10本の共用ビームラインを決める。現在、計画趣意書の提案は21件ある。そのうち9件のグループについて計画書を求めている。今の作業は、その中から4～6本について決め、答申を行う。

- ・提案課題の募集について

SPring-8利用研究課題申請状況について報告があった。1月10日到着分で約100件の申し込みがあった。（当日消印を含まず）

運営幹事：菅

- ・蓄積リング棟の入出管理体制が平日のみ8:30~18:30までは開錠となり、その他の時間帯および土曜、日曜、祭日はIDカードでの出入りとなった。

3. 審議事項

準会員制度について：坂井庶務幹事

- ・海外在住の利用研究者を主な対象としてSPring-8の情報提供を計る目的で準会員制度を設けるための会則・細則の改定の提案を審議し、細則については承認、会則については総会に提出することを承認した。

JASRIが管理運営を引き継いでからの利用者懇談会の活動方針：菊田会長

- ・SPring-8はもうまもなく建設フェイズから利用フェイズに変わり、また管理運営も原研・理研共同チームからJASRIに引き継がれるので、それに伴って利用者懇談会も活動にも変化がでてくる。JASRIへのスイッチングにあわせて、SPring-8利用者懇談会の活動方針についてつぎの7項目の試案が会長から提案され、検討された。
- ・研究課題別サブグループを存続させ、実験ステーションの建設のあとは、その高度化に寄与する。
- ・SPring-8の将来計画の立案にユーザーサイドから寄与する。
- ・SPring-8 Annual Reportに上記の作業のまとめを報告する。
- ・これらの作業に対してJASRIに資金的支援を要請し、利用者懇談会の活動の原資とする。
- ・SPring-8シンポジウム（仮称）と講習会をJASRIと共催する。
- ・広報誌「光彩」は「SPring-8利用者情報」にマージさせてもらう。
- ・JASRIの主要な委員会に委員の候補者を推薦する。

新会員承認：坂井庶務幹事

- ・72名の新入会員の名簿が閲覧され全員了承された。